金平茂紀さん語る

「新聞うずみ火」2017 年 12 月号から。TBS「報道特集」キャスターの金平茂紀さんの鋭い指摘、コメントなどに注目してきた。金平さんは大阪で 11 月 5 日に開催された「ジャーナリスト講座」で、選挙と、その後の日本の行方、メディアの現状などについて語った。示唆に富む発言の一部を紹介したい。

希望の党を立ち上げた小池・東京都知事が「リセットする」と発言したことに触れ、「リセットは『それまでの行きがかりをなかったことにしてしまう』ということ。これが、日本が陥っている一番の病だと思います。戦後日本の欠陥は何でもなかったことにしてしまう。本当はきちんと認めなければいけないのに直視せずになかったことにしてしまう」と指摘した。

会場からの質問に答える金平さん㊧

「やり直すチャンスはあった。その一つが『8・15』、日本が敗戦した日です。しかし、僕らは最初からきちんと向き合うことをしないで、敗戦を終戦と言い変え、戦争責任についても徹底的な責任追及をやらなかった。自らの力で独立を勝ち取らなかったのです。もう一つは 3・11、東日本大震災と福島第一原発の炉心溶融です。廃炉まで半世紀かかると言われています。溶け落ちた核燃料の位置を特定して取り出すなんてやったことがないのに、「オリンピックをやりましょう」と言っている。スタジアム建設などで労働力を取られ、廃炉作業をやる人間の数が足りない。今、外国人が入っています。日本人ではないから被曝量とかチャラにできるのです。戦後というのが、3・11 によって『災後』に変わり、安倍政権の登場に伴って災後が『戦前』に変わっているのではないでしょうか」

これからどうなるのか。「安倍首相は三つやりたいことがあると言われています。『改憲』と『オリンピックの開会式に出ること』と『佐藤栄作元首相の記録を抜いて戦後最長不倒を作ること』。自分の政治的なレガシー（遺産）づくりというのがはっきりしていて、有権者のことを考えた政策ではない。そういう流れの中にこれからの時代が進んでいくのだろうなと思います」

「戦後、チャラにされずにかろうじて維持されたものは『憲法』なのだと思う。少なくとも自衛隊が外国へ出て行ってそこの国民を殺していないし、戦死もしていない。そういうことを憲法が禁じてきたからです。ただ、『自衛隊のことを書き加えるぐらいなら』という空気になっている。だが、9 条 3 項に自衛隊を明記すると、2 項の『戦力の

不保持』が空洞化してしまう」

今、メデイアを覆っている空気について、金平さんは「委縮、忖度、自主規制だ」という。「報道の自由が強大な政治権力の介入によって危機に陥っていると言われるが、そうではありません。やるべきことを言われる前に放棄しているというのがメディアの現状を表しているのではないかと思っています」

メディアの役割について、筑紫哲也さんから言われてきたことがあるという。「権力を監視する役割が一番重要な役割だということ。次に、一つの方向に流れやすいこの国の中で少数派であることを恐れないこと。三つ目が多様な意見を提示することによって自由にモノが言える空気を保持しなければいけないということ。三つのことを考えていくと、権力監視は今では権力に隷従している。少数者の視点ではなく多数派につく、切り捨てている。多様な意見というのがなくなって一色に染まってしまっている。筑紫さんが目指した方向と全く逆の方にメディアが向かっているのが現実だと思いますね」

（2017 年 11 月 30 日）